

## アイスクライム：八ヶ岳、南沢

- ◆日程 2018年2月3日(土)
- ◆メンバー L：河野、須田健、冨田、池本、佐藤俊
- ◆天候 晴れ

前日に相鉄線 瀬谷駅に集合して0時ころ小淵沢の道の駅にてビバーク、早々に就寝して美濃戸口バス停に早朝に到着しました。すでに沢山の人が山に入っている様で、冬の八ヶ岳の人気を感じられました、冬季休業中の美濃戸山荘で休憩、アイゼンを装着して雪山トレッキング開始、これだけでも充分に楽しい。  
(佐藤)



始めてアイスクライミングを体験しました。両手はアイスバイル、足はアイゼンの爪を氷に打ち付け登っていくのですが、それが想像以上に大変でした。氷に刺さらなかったり、崩れたりして一回では打ち込めなくて、何度か繰り返してやっと1歩という状態だったので、あっという間に体力を消耗してしまい私は数メートルしか登れませんでした。それでも氷にザクッと刺さった瞬間は爽快でとても楽しかったです。

今回、八ヶ岳の南沢大滝で行いましたが、一面の雪の中に凍った滝が淡いブルーで壮観でした。参加して本当によかったです。サポートしていただいた先輩方、ありがとうございました。  
(池本)

駐車場から練習場の滝までの歩行時間も少しかかり到着時には既に疲れてしまった。(笑) まず河野さん、須田さんがロープを持って上がり支点を確保して下さった。いよいよ練習開始。試しに自分で持って来た縦走用ピッケルを氷壁にぶっ刺してみたが全然刺さらず使い物にならない。代わりに雫さんと須田さんからお借りしたアックス(名刀)を使うと良く刺さった。順番にクライム、ロアーダウン、ビレイを繰り返す。登っている時は暖かく、待ち時間が寒い。

岩登りと共通点が多いが、アイスクライミングは腕力ではなく刃が氷にいか刺さるかが重要であると感じた。アックスは良いものを使ったので腕場には安心感があったが、アイゼンは縦走用のものだったので刺さりが悪く足場に不安があった。佐藤さんから縦型の刃のアイゼンがあるとお聞きしました。それを使えばもっと登れると思った。

最後に河野さんがツェルトの設営について教えて下さった。ビバークの際に使える設営方法で勉強になった。帰りにみんな温泉に立ち寄って帰りました。大満足な体験でした。ご同行していただいた皆様ありがとうございました。  
(冨田)

CT：美濃戸口 7:00 - 美濃戸山荘 8:30 - 小滝分岐点 10:30 - 小滝 11:00  
- 美濃戸口 16:30

温泉立ち寄り：茅野市営施設 入浴¥600